

症例報告 チュートリアル

(2025年度 積聚会学術大会用)

※これまでに配布した資料と用語が違う部分があるのでご注意ください

症例報告 準備の流れ

症例報告（学術発表）にするための要素を知る



発表のテーマを決める



ワークシート・スライドを作る



抄録を書く

なぜ症例報告（学会発表）をやるべきか

なぜ症例を報告するか – 臨床のために –

症例での気付きを他の人に説明する



客観的に説明するにはカルテだけでなく**詳細な情報**が必要



自分の臨床を客観的に見直して整理する機会になる
鍼灸師としての技量を研鑽する材料になる

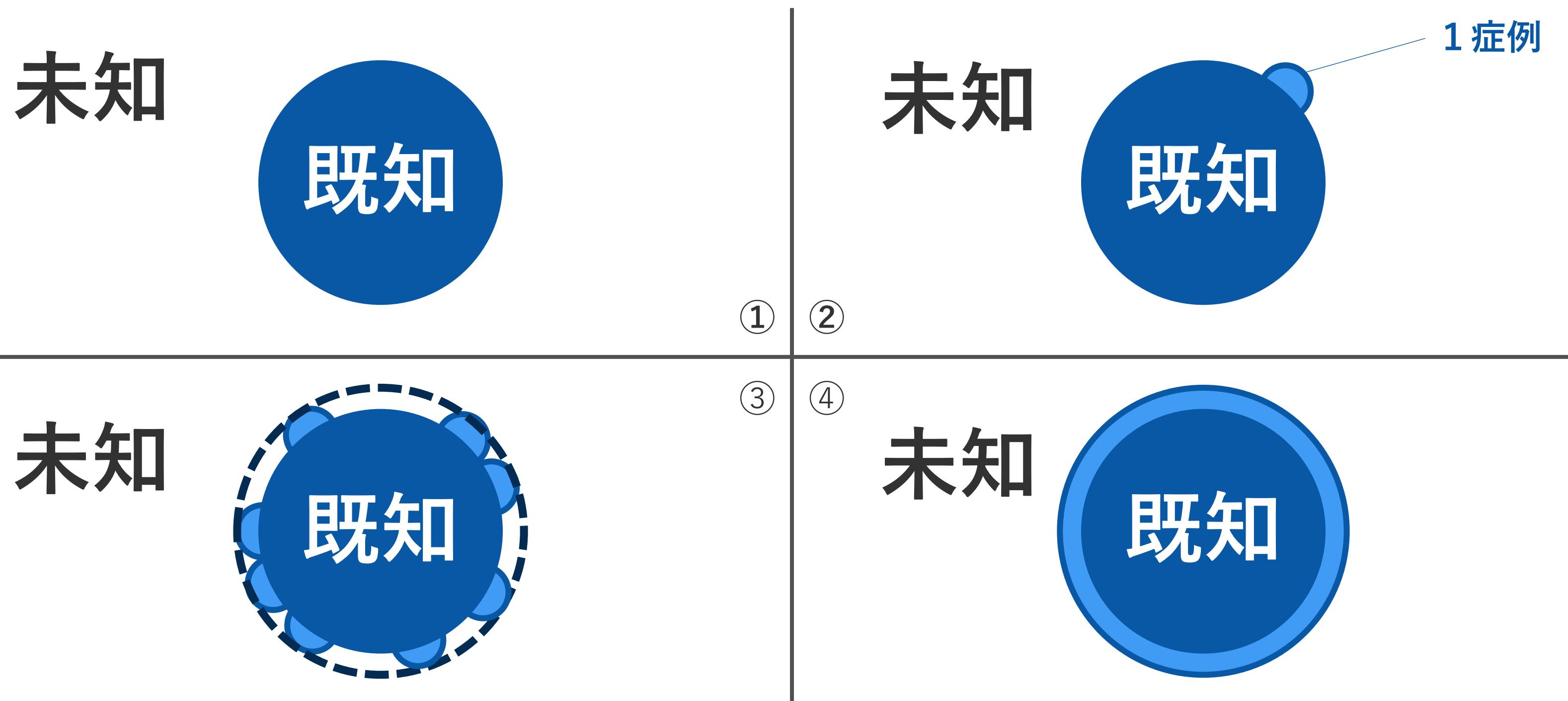
なぜ症例を報告するか – 鍼灸のために –

臨床の中で得た**新しい気付き**を報告する



- ① 鍼灸や学会にとっての既知が広がり**発展**につながる
- ② 聴いている人が今後の臨床に**役立つ**
- ③ 自分のことを知ってもらう

発展につなげる = 既知を広げる



学術的価値を高めるために必要な3条件

鍼灸・学会の発展につながる = **学術的価値がある**

学術的価値を高めるために**新規性・独自性・再現性**が必要

新規性 = 未発表の**新しい知見**を報告する

※新しい知見 = 今までと何か少しでも違えばいい

独自性 = 自分なりの方法や考え方を入れる

再現性 = **同じ前提であれば同じ結果**が出るように情報を出す

学術的価値を高める症例の3条件

新規性	[従来との違い][新しい治験][伝えたいこと]
独自性	[主題][臨床データ][自分の説明][課題]
再現性	[問い合わせ][既知の知識][患者データ]

ワークシートを使って症例からこれらの要素を抜き出す

発表までの流れ

症例の決定 & **ワークシート**を使って整理



スライド作成



ワークシートを基に **抄録**作成



学会にて **口頭**発表！

この資料でガイド

この資料の見方

一言まとめ

[③ 主題]

point [主題] = 症例のどこに着目して発表するか

[従来との違い]がどこか、**一単語**で言えるくらい更に細かく分類

症状・所見 ⇒ 病名、症状名、所見の場所・状態など

介入 ⇒ 方法、刺激した箇所、道具など

経過 ⇒ 想定通り、想定外、良好、悪化など

[従来との違い]がどこにあるか、**一単語**で表してください

ワークシートで
やること



発表する症例を決める

症例の整理

point → 症例を「症状→所見→介入→経過」に分解する

症例を分析する下準備として、各段階に分解して整理する

症状 = 患者の**主観的な訴え**全般

所見 = 四診による**客観的な情報**

介入 = **施術**（診立てを含む）や**指導**などの実施内容

経過 = 介入による**症状・所見の変化**（予後を含む）

[① 従来との違い] (1)

point → [従来との違い] = 「従来の過程」と違う現象・行動

症例報告をする = 「従来の過程」と違うことが起きた

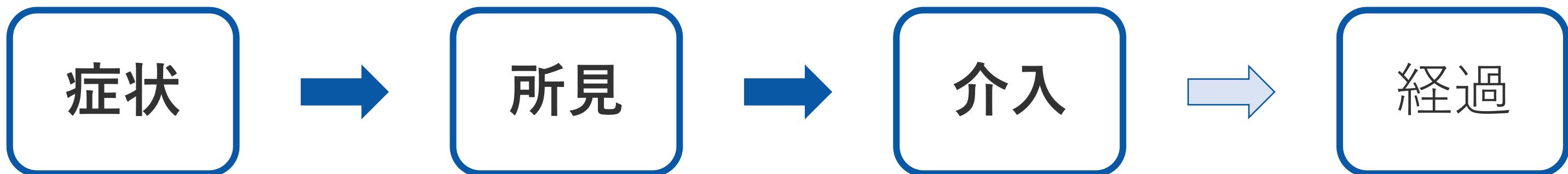
「従来の過程」と違う介入をした

[従来との違い]が症例のどの段階にあるのか分類して整理

⇒ 報告で着目してもらうポイントが明確になる

A. 予期せぬ変化を見た症例

従来

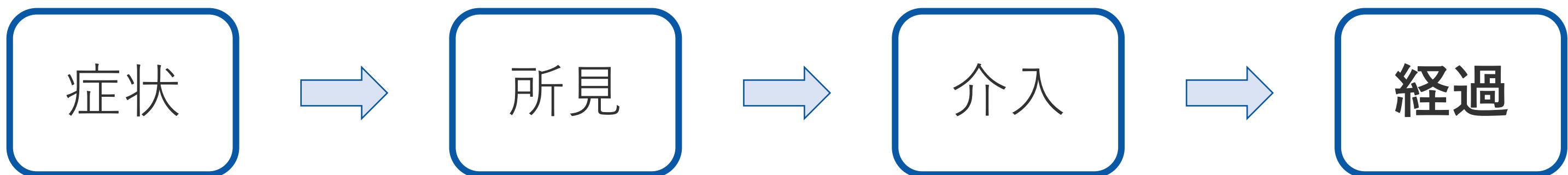


違い



B.工夫を加えた症例

従来

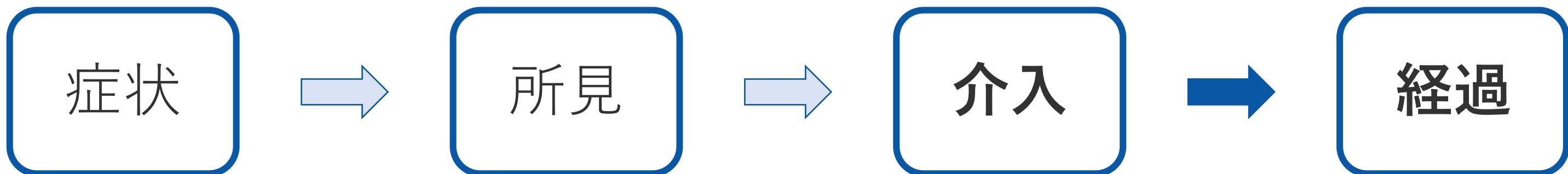


違い



C.珍しい病の症例

従来

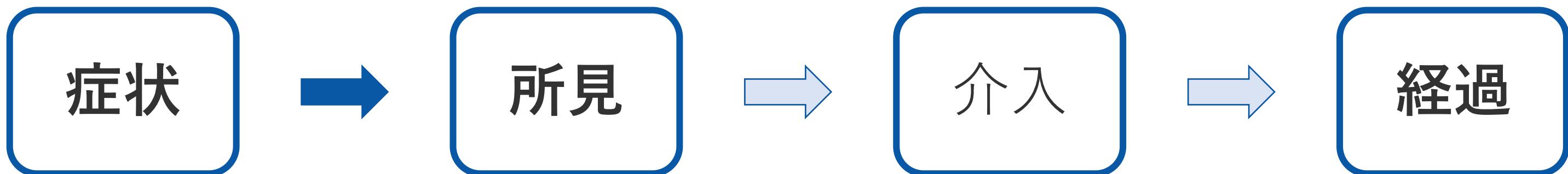


違い



D.新しいやり方を試行した症例

従来



違い



新しいやり方

[① 従来との違い] (2)

[従来との違い]がどの段階にあるかによって4パターン

- A. **予期せぬ変化** (善し悪し問わず) **を見た症例** = 経過が違う
 - ↳ B. **工夫を加えた症例** = 経過 (前回含む) + 介入が違う
- C. **珍しい病の症例** = 症状・所見が違う
- D. **新しいやり方を試行した症例** = 介入が違う

症例を分解し、どの段階に[従来との違い]があるかを探して下さい

② 新しい知見 (1)

point → [新しい知見] = まだ発表されていない事実

1つの報告に1つの[新しい知見]が必要

※[新しい知見]がない場合でも追試報告にはなる

[新しい知見]が多い場合には発表を複数回に分ける

未発表 = 報告・文章化されていなければ些細な情報でも可

② 新しい知見 (2)

point → [新しい知見]=[従来との違い]を1つの出来事にまとめたもの

A. 予期せぬ変化を見た症例

「従来の過程」だったけど[従来との違い]となつた

B. 工夫を加えた・C. 珍しい病・D. 新しいやり方を試行した症例

[従来との違い]だったら経過（従来通りor違う）となつた

[従来との違い]を 1つの文で説明して下さい

ワークシートで症例を整理する

ワークシートで抜き出す要素（1）

抄録を書く前に以下の要素を準備する

ワークシートを使うことでカルテをスタートにした順で考えていく

[① 従来との違い] = 「従来の過程」と違う現象・行動

[② 新しい知見] = [従来との違い]を 1 つの出来事にまとめたもの

[③ 主題] = 症例のどこに着目して発表するか

[④ 既知の知識] = [主題]に関する知識（歴史・理論など）

ワークシートで抜き出す要素（2）

- [⑤ **問い合わせ**] = [新しい知見]の新しさを確認するための情報
- [⑥ **自分の説明**] = [新しい知見]の理由・影響を解明
- [⑦ **患者データ**] = 介入前の情報
- [⑧ **臨床データ**] = 介入中・後の情報
- [⑨ **結論**] = [問い合わせ]の問い合わせに対する回答
- [⑩ **課題**] = 検証しきれなかった部分や新たな問い合わせ
- [⑪ **伝えたいこと**] = この報告がどう役立つか

[③ 主題]

point → [主題] = 症例のどこに着目して発表するか

[従来との違い]がどこか、**一単語**で言えるくらい更に細かく特定

症状・所見 ⇒ 病名、症状名、所見の場所・状態など

介入 ⇒ 方法、刺激した箇所、道具など

経過 ⇒ 想定通り、想定外、良好、悪化など

[従来との違い]がどこにあるか、**一単語**で表してください

[④ 既知の知識]

point → [既知の知識] = [主題]に関する知識（歴史・理論など）

[主題]について歴史・理論をまとめると

自分の治療法に留まらず、可能な限り広範囲に調べる

それがどのような書籍・雑誌にその知識が載っているか記録

[主題]に関する知識（出典も）を調べて書いてください

[⑤ 問い]

point → [問い合わせ] = [新しい知見]の有意義さを確認するための情報

[既知の知識]でわからなかつたことは何か ⇒ 「未知の知識」

「未知の知識」と[新しい知見]はどのような関係があるか

⇒ [新しい知見]で**どんな「未知の知識」**が解消するのか

[新しい知見]で「未知の知識」がどう解消するかを書いて下さい

[⑥ 自分の説明]

point → [自分の説明]=[新しい知見]の理由・影響を解明

[新しい知見]とする現象の**理由・影響**を自分なりに解明して説明

⇒ カルテデータや資料を使って[従来との違い]と既存の知見を**比較**して考える

[新しい知見]とした現象が起きたの**理由や影響**を考えてください

⑥ 自分の説明]の作り方 (1) 基本

「臨床データ」から **[従来との違い]**を抜き出す



その**[従来との違い]**を表す現象が、**積聚治療の理論（気・陰陽）**で
どのような意味を持つか考える



他の理論（医学の東西を問わず）でも説明ができる現象か検討する



積聚治療の理論と他の理論で整合性が取れるか考える

⑥ 自分の説明]の作り方（2）

「従来のやり方」と違うことが起きた場合

〔従来との違い〕である現象がなぜ起きたのか、積聚治療の理論（気・陰陽）で説明できるか考える



他の理論（医学の東西を問わず）でも説明ができる現象か検討する



積聚治療の理論と他の理論で整合性が取れるか考える

⑥ 自分の説明]の作り方（3）

「従来のやり方」と違う介入をした場合

〔従来との違い〕である**介入をした理由**を、積聚治療の理論（気・陰陽）で説明できるか考える



他の理論（医学の東西を問わず）でも説明ができる介入か検討する



積聚治療の理論と他の理論で整合性が取れるか考える

[⑥ 自分の説明]の作り方（4）

積聚治療の理論と他の理論で整合性がある場合

⇒全部を氣・陰陽で包括する説明を考える

積聚治療の理論と他の理論で整合性がない場合

積聚治療独自の現象として説明する

どちらのパターン化で後述の[⑪ 伝えたいこと]が変わる

[⑦ 患者データ]

point → [患者データ] = 介入前の情報

[自分の説明]で[従来との違い]と「従来の過程」を比較した際に判断材料にしたカルテ情報のうち介入前のもの = **症状・所見**

主訴・性別・年齢・現病歴・四診データなど

症例の**症状・所見**のうち[自分の説明]で使用したものは？

[⑧ 臨床データ]

point → [臨床データ] = 介入中・後の情報

[自分の説明]で[従来との違い]と「従来の過程」を比較した際に判断材料にしたカルテ情報のうち介入中・後のもの = **介入・経過**

所見の変化を**数字化**すると説得力が増す (VAS、可動域、徒手検査、臨床検査など)

症例の**介入・経過**のうち[自分の説明]で使用したものは？

[⑨ 結論]

point → [結論] = [問い合わせ]の問い合わせに対する回答

[自分の説明]を使って**[問い合わせ]への回答**とする

※問い合わせの解消に成功していなくても、それを結論として問題ない

[自分の説明]から[問い合わせ]について**分かったことはなんですか？**

[⑩ 課題]



[課題] = 検証しきれなかった部分や新たな問い合わせ

[問い合わせ]の中で[自分の説明]を使っても**答えられなかった部分**や
新たに生まれた謎

(理論と現象の不一致、考える材料の不足、症例数の不足などで)

今後の解決案を示すことができればベスト

検証が不十分な部分や新たに気付いた問い合わせはありますか？

[⑪ 伝えたいこと]

point → [伝えたいこと] = この報告がどう役立つか

[結論]で出した問い合わせへの回答が**学会の発展・聴く人の臨床**に
どうつながるかアピール

⇒ この報告がどのような点で役立つのか

[結論]はどんな分野や状況でどのように役立ちますか？

ワークシートを基にしたスライド作成

まずスライドから作るのはなぜ？

- ・ワークシートの中身をあてはめるだけで作れる
- ・抄録の方が文字数（情報量）が多い
⇒スライドが後だと**文字数を削る作業**をしないといけない
- ・抄録を提出した後にスライドを作ると変更したくなることがある
⇒しかし、**抄録は変更できない**ので気になってもそのまま

まずは**文字だけのスライド**を作ってみる（デザインは後回し）

スライド作成のポイント

スライド1枚ごとに見出しとスライド番号をつける

大きい文字 (20pt以上、できれば32pt前後) で、**背景に埋もれない色**を使うのが基本

文字数は最小限→箇条書きで7行程度

「目的→結論」の流れに**必要かつ不可欠なことだけ**を載せる

枚数・文量の目安は**スライド1枚辺り1分～2分**

スライドの各セクションの中身

【タイトル】 = [② 新しい知見]

【目的】 = [④ 既知の知識] [⑤ 問い] [② 新しい知見]

【症例】 = [⑦ 患者データ]

【結果】 = [⑧ 臨床データ]

【考察】 = [⑦ 患者データ] [⑧ 臨床データ] [④ 既知の知識]
[⑥ 自分の説明] [⑨ 結論] [⑩ 課題]

【結語】 = [⑨ 結論] [⑪ 伝えたいこと] [⑩ 課題]

【タイトル】 = 症例と報告の特徴

point →

【タイトル】 = [② 新しい知見]

発表を見てもらえるように興味を引く

⇒ どんな[新しい知見]を伝えたいか一見してわかるように

特徴説明に必要ならば[患者データ]や[問い合わせ]も

長くなる場合にはサブタイトルに分ける

【目的】 = 症例を報告・発表する目的

point

【目的】 = [④ 既知の知識] [⑤ 問い] [② 新しい知見]

まずは[既知の知識] [問い合わせ] [患者データ]で前提となる現状を説明

症例の報告・発表を行う目的を説明するから 【目的】

⇒ 「[伝えたいこと]の可能性を検討する」
「[伝えたいこと]が有効だったので報告する」など

【症例】 【結果】 = カルテの内容

point →

【症例】 = [⑦ 患者データ] 【結果】 = [⑧ 臨床データ]

※ 【症例】 として 1 つのセクションにしてもよい

読者が**検証・追試するためには必要な情報を時系列で**

[自分の説明]に使った[患者データ][臨床データ]

その他の情報も再現に必要なら付け足す（施術内容など）

自分の考えは書かずに**事実のみ**

【考察】 = 根拠を踏まえた自分の主張

point →

【考察】 = [患者データ][臨床データ][既知の知識]
[自分の説明][結論][課題]

[臨床データ]から簡単に**臨床の結果**を振り返る

[患者データ][臨床データ][既知の知識]**根拠**として

自分の説明を述べる最後にまとめとして

[結論] (あれば[課題]も書く)

【考察】に必要な根拠

症例による事実 = [患者データ][臨床データ]

※都合の良い結果だけをピックアップしないように

資料による事実 = [既知の知識]

文献資料などから正しく引用（出典を明記）する

報告する相手（=読者）が納得している事実は説明・出典不要

※積聚会では国家試験および応用コース修了程度の内容

【考察】の注意点

読者が自分と同じ結論にたどり着けるように
1つ1つ丁寧に段階を踏みながら話を進める

[新しい知見]が他の症例にも当てはまる可能性を示す

[課題]も検証したけど不明であることを示すために載せる

他の解釈の可能性も検討、否定しきれない場合は[課題]に加える

【結語】 = まとめた結論と今後の課題

point →

【結語】 = [結論][伝えたいこと][課題]

症例のまとめとして再度[結論]を提示する

【目的】に書いた[問い合わせ]と対になる[伝えたいこと]

今後の方針として[課題]で締める

ワークシートを基にした抄録作成

抄録の役割

大規模な学術大会だと他の講演・発表と時間がかぶる

→発表内容を簡潔に紹介して**興味を持ってもらう**

自分の発見が役に立つことを**納得してもらう**ために説明する

→スライドは最小限の説明、抄録ではしっかりと説明

読んだ人が**再現できる**ような情報を提供する

読みやすい抄録にするために

「である」口調で書く、音読してみる
長文にならないように **1つの文に1つのメッセージ** で

何も知らない人が読むことを想定する
⇒自分にとって当たり前のことでも省かない
⇒なるべく提出前に誰かに読んでもらう

抄録のセクション

【タイトル】 = 症例と報告の特徴を伝える

【目的】 = 症例を報告・発表する目的

【症例】 = 患者さんのデータや所見

【結果】 = 施術内容とその結果

【考察】 = 根拠を踏まえた自分の主張

【結語】 = まとめた結論と今後の課題

抄録の各セクションの中身

【タイトル】 = [新しい知見]

【目的】 = [既知の知識] [問い合わせ] [患者データ] [伝えたいこと]

【症例】 = [患者データ]

【結果】 = [臨床データ]

【考察】 = [患者データ] [臨床データ] [既知の知識]
[自分の説明] [結論] [課題]

【結語】 = [結論] [伝えたいこと] [課題]

【キーワード】

[主題]を含め、テーマを**特徴づける言葉**を2～3個に絞って
【キーワード】にする

読む人が自分に役立つ報告を検索・把握するため
⇒パッと見ただけでわかるような一般的な言葉で

査読への対応は

査読コメント全てに対応する

⇒ コメントで指摘された通りに修正し、その内容を返信する

⇒ 修正せずに、その理由を説明する

コメントがあった部分以外には手をつけない